

第30期目録委員会記録 No.9

第9回委員会

日時：2006年2月4日（土）14時～17時

場所：日本図書館協会5階会議室

出席：永田委員長，鈴木，原井，平田，古川，増井，茂出木，横山
<事務局>磯部

[配付資料]

- 1．13桁ISBNの準備について（3ページ-A4，事務局）
- 2．「NCR1987 2R」要訂正箇所一覧（1枚-A4，横山委員）
- 3．RDA :draft2005（見出し簡略版）（8ページ-A4，原井委員）
- 4．RDA :draft2005（見出し詳細版）（24ページ-A4，原井委員）
- 5．[RDA]第1部への導入（5ページ-A4，原井委員）
- 6．RDA 第I部第2次草案（2005.12）序論および第1章の概要（3ページ-A4，古川委員）
- 7．RDA（draft2005）第2章とAACR2（第1章を中心とする）の構成比較（6ページ-A4，鈴木委員）
- 8．RDA：Resource Description and Access Part I – Constituency Review of January 2006 Draft of Chapter 3（66ページ-A4，JSCホームページよりプリントアウト，事務局）
- 9．第30期第8回目録委員会記録（2ページ-A4，事務局）

[報告・連絡事項]

- 1．新委員について

渡邊隆弘氏（神戸大学附属図書館）が、2月より委員に就任した。

[検討事項]

- 1．ISBNの13桁化への対応について

2007年1月からISBN が13桁に変更されることに伴い、NCR 2.8.1.2の条項修正について、下記のような討議があった。

条項の修正案は鈴木委員が担当する。2月中に日本図書館協会のホームページ上及び図書館雑誌に掲載し、1ヶ月程度意見を募った上で、NCR1987年版改訂3版に反映させることとなった。

また、日本図書館協会からJPO日本図書コード管理センターに対して、13桁化に伴いチェックデジットの計算に瑕疵が出ないように留意いただきたい旨、申し入れることになった。

- ・ 国会図書館の適用細則では、今後桁数がどのように変更になっても適用できるように、国別記号等の説明語句及び桁数について削除した。

- ・ 10桁と13桁のISBNを持つ資料が当面の間、並行的に流通することが予想されるので、条項中に桁数は明記しないほうがいいのではないか
- ・ NCRはハイフンをどこにいれるかということに関して、「入力方法」だけでなく、「出力形式」も規定しているので、10桁ISBNの場合に加えて、13桁のISBNについてもそれぞれのブロックの説明語句と共にハイフンの位置を明示する必要があるだろう。
- ・ 資料に13桁と10桁のISBNが併記されていた場合には、13桁ISBNを優先して採り、10桁のISBNを記録するかどうかは任意であろう。10桁のISBNを13桁に補正することはNCRでは規定しない。

2. NCR1987年版改訂3版について

横山委員より配布資料2に基づき、改訂3版の刊行に併せて、現在判明している訂正が必要な箇所について説明があった。また、古川委員より下記のとおり訂正必要箇所の指摘があった。

- ・ 1.2.1.1 本文「版表示には、通常序数と版、」 「版表示には、通常、序数と版、」（読点の追加）
- ・ 1.7.0.0 本文「記述したり、限定する機能」 「記述したり、限定したりする機能」
- ・ 1.7.0.0イ）本文「容易にする」 「容易にする。」（句点の追加）
- ・ 1.7.0.0ウ）本文「特徴を示す」 「特徴を示す。」（句点の追加）
- ・ 1.7.0.0エ）本文「書誌的来歴を示す」 「書誌的来歴を示す。」（句点の追加）
- ・ 2.2.1.1 本文「版表示には、通常序数と版、」 「版表示には、通常、序数と版、」（読点の追加。以上は第9・13章改訂時の訂正に合わせるもの）
- ・ 5.5.1.2 例示「ヴォーカルスコア1冊、（194p）」 「ヴォーカルスコア1冊（194p）」（コンマの削除）
- ・ 6.7.3.4 例示「ドイツ語. 英語」 「ドイツ語、 英語」（ピリオドをコンマに訂正）
- ・ 記述付則2 1単行レベルの記録「6,471p」 「6, 471p」（コンマ後1字あけ）
- ・ 記述付則2 3集合レベルの記録「6,336p」 「6, 336p」（コンマ後1字あけ）
- ・ 記述付則2 3集合レベルの記録「6,471p」 「6, 471p」（コンマ後1字あけ）
- ・ 記述付則2 4集合レベルの記録「6,471p」 「6, 471p」（コンマ後1字あけ）
- ・ 記述付則2 6.1単行単位の分割「6,418p」 「6, 418p」（コンマ後1字あけ）
- ・ 記述付則2 6.2集合単位の分割「6,471p」 「6, 471p」（コンマ後1字あけ）
- ・ 標目付則2 原著者「改定版」 「改訂版」
- ・ 標目付則2 改作、改定者など「改定」 「改訂」
- ・ 付録5カード記入例 「岩波現代叢書」 「岩波現代選書」

付録1にも例示されている「江藤淳、 蓮實重彦」や「J. H. & E. J. フェンドラー」のように、ISBDでの区切り記号としてのスペースと慣習的な表記上のスペースの用法が混在している問題に関して、以下のような討議が行われた。

- ・ ISBDでの区切り記号のスペースと慣習的な表記のスペースを混同するのは適切ではないが、付録1の規定はISBDの範囲に含まれない用法も規定している。

- ・ 将来的には、付録1自体の見直しを視野に入れる必要があるが、現時点では、時間的にも厳しいので、今回は、付録1には根本的な訂正は加えず、本文中や例示で明らかに間違いである部分のみの修正するにとどめるのが良いのではないか。
- ・ 13章の改訂に併せて、付録1 (p.330) 逐次刊行物の巻次、年月次のあとのスペースに関する部分は修正すべきではないか。

p.363の書誌階層構造の説明文に関して、以下のような討議が行われた。

- ・ 「書誌的記録を構成する書誌的事項には・・・」で「書誌的記録」の表現は間違いとは言えないが、「記述」とした方がよりの確ではないか。
- ・ この規定を定めたときには、「記述」という表現には、カード目録のイメージが強かったため、敢えて避けたのではないか。
- ・ 「書誌的事項」と言っている以上、標目は含まれていないので、この表現は「記述」そのものを指していることにならないか。
- ・ 「構成する」という言葉を用いることで、階層構造のイメージを明らかにしたい意図があるのではないか。
- ・ 「書誌的事項には・・・」は、「書誌的事項相互には・・・」とか「書誌的事項の間には・・・」と補うとわかりやすくなるのではないか。
- ・ NCRでは、書誌的事項とその集合である記述全体の関係が、あいまいにされているのではないか。

以上の議論を踏まえ、改訂3版（2006年5月ごろ刊行予定）に向けて、付録1は、2章、3章、13章の先行改訂に伴う関連条項番号の訂正と巻次、年月次の後のスペースに関する訂正のみを行うこととなった。本文及び例示に関しては、5月の刊行予定スケジュールに沿って、現実的にできる範囲での明らかな間違いのみの訂正を行うこととした。

関連条項番号の確認は、増井委員（2章）と原井委員（13章）が担当する。他の委員は、本文及び例示を再確認し、訂正を要する箇所を次回委員会までに報告することとなった。

その他、改訂3版に向けての作業として、目録委員会報告（第28期～）を追加すること、2章、3章に関しては、先行改訂分に現行の例示を入れ込む必要があることが確認された。

また、英語名は、3rd ed.ではなく2006 revisionとし、省略形は、改訂2版はNCR1987 R2、改訂3版はNCR1987 R3とすることが確認された。

3. RDA第 部draft2005について

古川委員より配布資料6に基づき、RDA draft2005の第 部の序論及び第1章について説明があり、以下の討議を行った。

- ・ 形態エリアは、FRBRでは同定識別の要素としてかなり重きが置かれていたが、RDAでは2章から完全に外している。
- ・ Identify自体は幅のある言葉であり、一般的に使われる「わかればいい」というレベルと目録作業で使う意味には隔たりがあるのではないか。
- ・ 第5章（資料の入手に関する情報）、第6章（個別資料に特有な情報）と本来の記述以外の部分を切り分けたことは評価できる。逐次刊行物の所蔵に関する規定を第6章に

加えても良いのではないか。

- ・ 電子資料では、1点ずつを所蔵しているという概念が薄れてきている。コレクション資料全体の記述とその中で、個々の図書館がどこを契約しているか(=所蔵しているか)ということがうまく表現できるだろうか。全体記述と部分記述の関係で表現することになるのだろうか。
- ・ 電子資料についてはGoogle printやリンクリゾルバという動きを無視できないだろう。利用者がフルテキスト検索を当たり前のものだとしている中で、Googleなどから出回るメタデータや個々の図書館のOPACのあり方も含めて、今後の目録規則を検討する必要があるのではないか。

次回の委員会の予定

3月11日(土)

以上